

第4学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(木) 6校時
 児 童 4年1組 9名
 授業者 岩間 仁

- 1 単元名 登場人物の変化を中心に読み、物語をしょうかいしよう
 教材名 「プラタナスの木」 椎名 誠 作 (「国語 四(下) はばたき」 光村図書)

2 単元について

- ・本単元では、登場人物の気持ちの変化とそのきっかけを捉えることに焦点を当てる。本単元は、対人物のおじいさんとの出会いや会話、台風との遭遇、夏休み明けの公園の変化を大切に読み進めることにより、中心人物の自然に対する心の動きが分かる作品である。また、場の設定や登場人物と対人物との関わりの大切さが理解できるつくりとなっている。登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けながら捉えるのに適した作品であるため、登場人物の変化とそのきっかけについて想像を膨らませながら考えさせていく。
- ・児童は、これまでに3年生2学期「三年とうげ」の学習において、場面展開や組み立てを意識して物語を読む学習をしている。また、4年生1学期「白いぼうし」では初発の感想を基に問いをつくり、場面と場面のつながりを意識しながら読むことで問いを解決していく学習を行った。さらに4年生2学期「ごんぎつね」の学習では、気持ちを表す言葉や情景の描かれ方に気を付けて読み、場面と場面を結び付けたり比べたりして気持ちの変化を読む学習をしている。児童は、自分の考えを話すことはできるが、友達のを生かしたり、自分の考えと比べたりすることが苦手である。また、考えを形成する場面では、学習してきたことを整理するのに時間がかかり、なかなか書き出せない児童がいる。
- ・授業者は、互いの意見を比べながら考えを広げたり、考えを合わせてまとめたりできるように対話の目的をはっきりと示す。また、単元の最初に、「紹介文にまとめる」という明確なゴールを児童に示す。児童が考えの形成に向かって見通しをもてるよう、シンキングツール等を活用し、考えを整理しながら学習を進めていくことを目指す。さらに、児童が何を考えればよいのかを明確にし、言葉から必要な情報を読んで理解を深められるよう、発問を吟味する必要がある。

3 単元の目標

[知識及び技能]	[思考力, 判断力, 表現力等]	[学びに向かう力, 人間性等]
①様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 (1) オ	①登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 C (1) エ ②登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。 C (1) イ	①言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

4 単元の「課題解決的な言語活動」

くわしく読んで分かったことや感じたことをもとに、「プラタナスの木」の魅力を紹介文としてまとめる活動。
 (関連：言語活動例イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1) オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 C (1) エ ②「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 C (1) イ	①進んで、登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の魅力を紹介する文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全9時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1 ・ 2	○物語を読み、初発の感想を書く。 ○単元課題を確認し、学習計画を立てる。 ○紹介文を書くための読みの要素を確かめる。 ①登場人物 ②中心人物の変化 ③変化のきっかけ ④物語の1番のみりよく	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に興味や関心をもつために、扉絵や「プラタナスの木」という題名にふれる。 ・学習計画をたてるために友達と感想を共有する。物語の印象についてのアンケート結果と感想を視覚化し、掲示する。 ・物語を深く読むために、初発の感想では「みんなで考えたいこと」の視点を与える。 ・学習の見通しをもつために「みりよくを紹介文としてまとめる」という単元のゴールを示す。 ・紹介文を書くために、必要な読みの要素を X チャートに整理していくことを伝え、モデル文を提示する。 ・要素④「物語の1番のみりよく」を考えるために、各時間の振り返りで魅力に感じた部分をダイヤモンドランキングに追加していく。 	
	<p>「プラタナスの木」という物語には、() という人物が出てきます。最初は、() だった中心人物は、() という出来事を通して、最後は () に変化します。 物語の1番のみりよくは () です。ぜひ読んでみてください。</p>		
3 ・ 4	○「プラタナスの木」を読み、物語のおおまかな内容を捉える。 ○中心人物を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・おおまかな内容を捉えるために、時、場所、登場人物に着目して場面を分け、出来事を整理する。 ・中心人物を決めるために、「国語キーワード」を使って定義を確認する。 	<p>【知・技①】 時、場所、人物や言葉、情景の叙述に着目して読み、語彙を豊かにしているかの確認。 〔発言〕</p> <p>【思・判・表②】 中心人物が誰なのかについて、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えているかの確認。 〔記述・発言〕</p>
5 ・ 6 ・ 7 (本時)	○物語の最初と最後で中心人物「マーちゃん」がどのように変化したか考える。 ○「マーちゃん」の変化のきっかけについて考える。 ○対人物「おじいさん」の存在について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「マーちゃん」の変化を捉えるために、最初と最後の場面に焦点を当てて読み、比較する。 ・変化を捉えるために、「プラタナスの木への思い」「自然に対する思い」の視点を与える。 ・マーちゃんの変化のきっかけを捉えるために、おじいさんの話を聞いたこと、台風との遭遇、夏休み明けの公園の変化を取り上げ、気持ちの変化と各場面の出来事を対応させながら考える。 ・変化のきっかけについて考えを深めるために、「おじいさん」の存在について考える。 ・考えの根拠を視覚的に捉えるために、クラゲチャートを活用する。 	<p>【思・判・表①】 場面の移り変わりの中で、複数の叙述を結び付けながら「マーちゃん」の変化のきっかけについて考えをもっているかの確認。 〔記述・発言〕</p> <p>【思・判・表①】 「おじいさん」の正体について想像を膨らませながら読み、不思議なおじいさんの存在を「マーちゃん」の変化と関連付けているかの確認。 〔記述・発言〕</p>
8 ・ 9	○紹介文を完成させる。 ○書いた紹介文を共有し、単元のまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめるために、モデル文を参考にして紹介文を書く。 ・考えを形成するために、自分の生活経験と照らし合わせて考えたり、既習の物語の構造との共通点や相違点に触れたりすることを伝える。 ・一人一人の感じ方に違いがあることに気付くために、学級の友達と紹介文を共有し、単元をまとめる。 	<p>【学習に取り組む態度①】 物語の魅力を紹介する文章を書き、友達と考えを伝え合う活動に進んで取り組んでいるかの確認。 〔記述・発言〕</p>

7 本時の指導 (7/9)

(1) 本時の目標

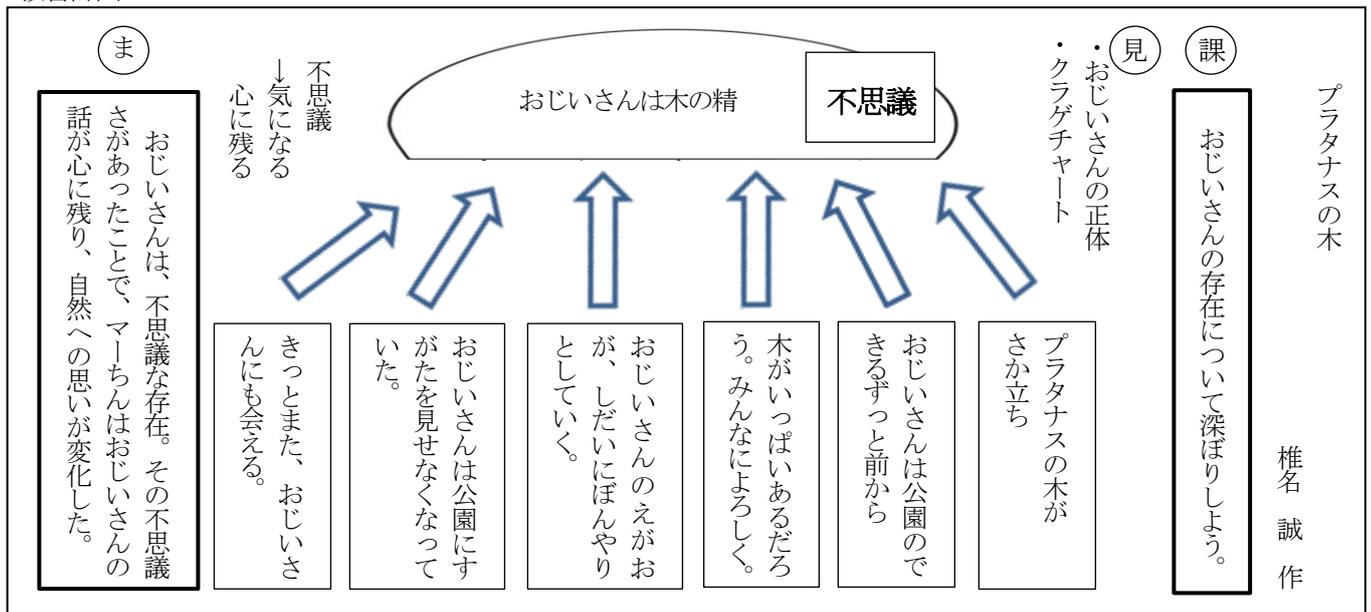
おじいさんが不思議であることに気づき、その不思議さと中心人物の変化を関連付けて考えることができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。	・児童の振り返りから、前時の学習を振り返る。
	2 学習課題を把握する。	・初発の感想で出た疑問を生かしながら、前時で読んだきっかけからさらに深めたいものをみんなで決める。
おじいさんの存在について、深ぼりしよう。		
展開 30分	3 課題解決のための見通しをもつ。 (1) おじいさんの正体について考えることを確認する。 (2) 理由付けをするときはクラゲチャートを使うことを確認する。	【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】 おじいさんがプラタナスの木の精だと仮定して、「もしもおじいさんがプラタナスの木の精だとしたら、証拠になる文章はあるかな？」と問うことで読みの方向性を示し、本時の課題に迫る。
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 (7分) ①全文を通して「おじいさん」がついている叙述から根拠を探す。 ②そう考えたわけを説明する。 (2) ペア学習 (7分) ①全文シートを見せ合い、お互いの考えを交流する。 ②交流したことを基に再度考える。 (3) 全体学習 ①発表する。	・あらかじめ「おじいさん」に印がついている全文シートを配付し、木の精といえる根拠になるか理由とともに考える。 【視点2：考えを積み上げる対話】 友達との対話によって交流する。ペア活動では、全文シートを自由に活用させ、お互いの考えを共有しやすくする。また、交流したことを基に再度考える時間を確保することで自分との対話を促し、考えを広げることができるように支援する。 ・考えを視覚化するために、センテンスカードにカラーシールを貼り、掲示する。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。」を選びました。なぜかという、木を人間のように言っているところがあやしいと思ったからです。 ・「木がいっぱいあるだろう。みんなよろしく。」を選びました。なぜかという、人間なら木をみんなとは呼ばないと思ったからです。 ・「おじいさんは公園にすがたを見せなくなっていた。」を選びました。なぜかという、プラタナスの木がなくなったことでおじいさんも現れなくなったと思ったからです。 ・「春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きっとまた、おじいさんにも会える。」を選びました。なぜかという、この部分から、マーちゃんたちもおじいさんのことを木の精だと思っているように感じたからです。 </div>		
②考えを整理する。 ③「不思議さ」が与えた影響を考える。		・児童の思考を整理するために、シンキングツールを使って板書する。 ・おじいさんの「不思議さ」に焦点を当てる。 【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】 「おじいさんが不思議な存在でなくてもマーちゃんは変化したのではないか。」と問う。あえておじいさんの不思議な言動を違った表現で提示することで、おじいさんの不思議さがマーちゃんの変化に影響をあたえていることを捉えさせたい。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「不思議さ」は必要だと思います。なぜかという、「木がさか立ち」という不思議でインパクトのある言い方だからこそ、マーちゃんにとっては初めて聞く話として心に残ったと思うからです。 ・「不思議さ」は必要だと思います。にこにこしたり、にっこりしたりする不思議なおじいさんではなく、こわいおじいさんだったら話は聞かないと思うからです。 ・「不思議さ」は必要だと思います。公園にすがたを見せなくなったからこそ、マーちゃんたちはおじいさんの話を思い出して根のことを考えたと思うからです。 </div>		

終末 10分	5 学習をまとめる。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんは不思議な存在だと分かりました。おじいさんが不思議な言い方をしたから、マーちゃんは根の話が心に残ったのだと思いました。 ・おじいさんは不思議な人だと分かりました。もしもおじいさんがちがったふんいきだったら、マーちゃんにとって根の話はどうでもいい話になっているかなと思ったので、不思議さは必要だと感じました。 	
	6 振り返りをする。 ・見通しの手立ては有効だったか ・友達との対話で深まったところ等	<p>◇おじいさんが<u>不思議な存在であることに気づき</u>、その不思議さが<u>中心人物の変化に関係していること</u>について、自分の考えをまとめているかの確認。</p> <p>[まとめの記述]</p> <p>・本時の内容を生かした振り返りを書くために、視点を与える。</p>
	7 次時の確認をする。	

8 板書計画



9 本時の授業改善の視点

【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

おじいさんの存在について考えていくとき、おじいさんは人間なのか木の精なのかについて考えることを課題解決の糸口とする。そこで本時では、おじいさんは木の精であると解釈を仮定する。これにより、「おじいさんが木の精だといえる証拠を見つける」という共通の見通しをもって学習にとりかかることができるであろう。「もしも、おじいさんが木の精だとしたら、証拠になる文章はあるか。」と問うことで読みの視点をそろえたい。

【視点2：考えを積み上げる対話】

初めに自力解決を行い、自分との対話ができる時間を保障する。次に考えたことを友達との対話によって交流するペア活動では、「考えを広げる」という目的を伝えることで活発な対話になるように支援する。交流した結果を基に再度思考する時間を保障することで考えが広がったり深まったりすることを自覚させたい。全体学習の際には、センテンスカードに個人のカラーシールを貼ることで考えを共有する。

【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

教材文にはおじいさんの正体について書かれていない。そのため、おじいさんは木の精かと思えるぐらい不思議な存在であるというように全体で確認をする。その後、おじいさんの「不思議さ」をマーちゃんの変化と関連付けるように促したい。そのために「おじいさんは不思議な存在でなくてもマーちゃんは変化したのではないか。」と問う。おじいさんの言動をあえて違った表現に変えながら児童に提示することで、もしもおじいさんが不思議な存在でなかったらマーちゃんは変化したかどうかについて考えさせたい。